

教材名	ぐみの木と小鳥	教科書	光文（学研、日文）	学年	2年
内容項目	親切、思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。			
内容項目のとらえ方 (子どもの実態を踏まえ)	親切や思いやりは、無理をしたり自分を犠牲にしたりして行うものではない。「身近にいる人とは」ということも十分考えさせるとともに、今の自分にできる親切について等身大の意見を出しあえる話しあい活動をさせたい。				
授業の展開					
子どもたちの活動			指導上の留意点		
1. 親切にされてうれしかった経験について話し合う。			○本時の課題に結びつけるために、自分たちの身近な経験について話しあわせる。		
めあて 思いやりの心とは どんな心か考えよう。					
2. 教材「ぐみの木と小鳥」をもとに、小鳥の気持ちについて話しあう。					
(1) ぐみの木から「ともだちのりすさんがこのごろすがたを見せない」と聞いたとき、小鳥はどんな気持ちだったか話しあう。			○小鳥の気持ちを視覚的にも捉えられるように、挿絵（追加挿絵も含む）を拡大した小鳥の表情絵を用いる。		
<p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさん、どうしたのかな。心配だ。 ・わたしが代わりに様子を見てこよう。 					
(2) 病気で寝ているりすさんに会った小鳥は、どんなことを思ったか話しあう。			○小鳥とりすはもともと仲良しの友だちというわけではないことを押さえる。		
<p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気だったのか。かわいそう。 ・様子を見に来てよかった。 ・よろこんでくれたから明日も行こう。 					
(3) やみそうもない嵐を見ながらじっと考えていたとき、小鳥の心の中はどうだったか話しあう。			○ワークシートに自分の考えを書かせてから発表させ多様な価値観にふれさせる。		
<p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日行くと危ないぞ。自分もけがをしてしまうかもしれない。 ・りすさんのことが心配だな。早くあらしがおさまらないかな。 ・ぼくのことをまっているかもしれないから、やっぱりがんばって行こう。 			○「行く」「行かない」という気持ちの葛藤を対立的に板書することで、小鳥の気持ちを捉えやすいようにする。		
			○どちらの選択が正しいというのではなく、さまざまな考え方があってよいことを伝える。		
			○オープンエンドで終わる。		